

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B1603-2		事務事業名			読書啓発事業			事業期間		昭和63年度以前		～	令和8年度以降					
実施計画事業																				
実施計画事業以外の事業		○		担当部			教育委員会			担当課・担当係		図書館・図書係								
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編	基本 施策	16	展開 方向	3	事業・予算区分	一般事業			款	10	項	5	目	9	大	2	中	3
	根拠法令・個別計画	・図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画、愛知県子供読書活動推進計画、小牧市教育大綱・小牧市教育振興基本計画、小牧市図書館サービス計画						対象 (何・誰を対象に)			・市民									
	目的 (何のために)	生涯を通して主体的に学び続けられる一つの手段として、読書啓発を行う。						内容 (どのような方法で)			○令和5年度の実施内容 ・ボランティアと連携を図りながら、子どもから大人まで、あらゆる世代を対象として読書推進を図るため、講座・催しを開催した。 ・図書館で活動するボランティアのスキルアップを目的として、ボランティアステップアップ講座を実施した。 ・乳幼児期から切れ目のない読書習慣の形成を図るため、4か月児健診に合わせて絵本を2冊プレゼントするブックスタート事業を実施した。 ・子どもの読書習慣の形成を図るため、保育園、小中学校、児童クラブ等へ団体貸出(施設配本サービス)を実施した。 ・読書推進を図るため、年齢や主題に合わせたおすすめ本リーフレットを発行した。									

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R2	R3	R4	R5	R6
			直接経費	決算額	千円	2,962	2,019
	財源	一般財源					
		国・県支出金	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	
		計(A)	2,962	2,019	2,043	1,943	
		対前年比	—	68.16%	101.19%	95.11%	
	予算額	千円	3,901	2,715	2,280	2,208	2,191
	人件費	正規職員	人	0.84	0.84	0.98	0.81
		正規職員(平均賃金)	千円	6,288	6,288	7,336	6,064
		その他職員	人	1.45	1.45	3.55	3.55
		その他職員(時給×時間)	千円	3,701	3,881	9,627	10,347
		計(B)	千円	9,989	10,169	16,963	16,411
	事業費合計(C=A+B)	千円	12,951	12,188	19,006	18,354	

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	16	指標名	単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	貸出利用者数	人	↗	325,559	324,281		
展開方向	3	2	貸出点数	点	↗	1,276,182	1,237,671			
		3								

指標	指標ほか		単位	R2	R3	R4	R5	R6	
	成果指標	講座・催し等参加人数	人	目標	7,159	7,159	2,300	2,300	6,500
				実績	1,180	2,818	6,011	6,242	
		ブックスタート実施人数	人	目標	—	—	—	—	—
				実績	1,067	1,024	938	906	
	活動指標	配本貸出点数	点	目標	55,000	55,000	55,000	60,000	60,000
				実績	53,879	56,652	60,901	57,868	
		リーフレット発行号数 (えほん・キッズ・ティーンズ・ビジネス・ パスファインダー)	号	目標	—	—	—	40	40
				実績	27	35	42	40	
	単 事 業 あ た り	受益者数(a)		人	—	—	—	—	
受益者あたり事業費(=C/a)		円							

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの				
	事業の達成状況と課題	<p>【事業の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5年度の講座・催しは、コロナ禍以前に近い状態で開催できるようになり、多数開催し、目標値を超える参加者数があった。 ・ブックスタート実施人数の減少は、出生数の減少によるものである。 ・図書館からおすすめ本を紹介したリーフレットについては、計画どおり発行することができた。 <p>【事業実施の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館主催の講座・催しについて、リピーターとして定着してきている一方で、今まで一度も参加したことのない市民の参加者数を拡大していく必要がある。 ・リーフレットを発行しているところであるが、より魅力あるものにしていく必要がある。 	今後の実施内容・今後の改善内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアのスキルアップを図り、魅力的な講座・催しを開催することで、今まで参加したことのない市民へ働きかけ、読書活動の推進を図る。 ・乳幼児から切れ目のない読書習慣の形成を図るためには、ブックスタート事業を継続実施する。 ・図書館主催の講座・催しについては、マンネリ化しないように、常に新しい内容も行うようにしていく。 ・図書館職員が作成するリーフレットについて、利用者にとってより分かりやすく、興味を引くようなリーフレットとなるよう、紙面をリニューアルし、積極的な周知を行う。 			
	改善の有無	有		千円	節	細節	細々節
これまでの改善内容	図書館サービスの充実を図るため、R4年度には、レファレンスに特化したリーフレット「パスファインダー」を新規作成し、読書活動の推進に努めた。R5年度も継続発行できた。	事務事業評価額					

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
事業分析	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である ブックスタート事業(乳幼児に対する絵本の配布)は、公費投入は妥当である。 図書館内での講座・催しについては、現状、多くの市民活動団体にも行っていただいております、市主催のものは、最低限まで絞っている。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある 子育て支援の取組として、4か月児の赤ちゃんに絵本をプレゼントする「ブックスタート事業」については、『こども夢チャレンジNo.1都市』を宣言している本市にとって重要な事業であるとともに、廃止・休止した場合は子育て中の世帯・これから子育てする若い世帯への支援策が1つ減ることとなる。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい 読書啓発事業の費用は、プレゼントする絵本の購入費用であり、総事業費を削減すると、絵本の購入ができなくなるため、削減できない。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい 上記理由と同様。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である 子育て支援の取組として、絵本をプレゼントしていることから、現状が適正である。 (受益者負担無し)